

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう oun
稲雲

令和6年度 第16号

令和6年12月13日発行

発行者：校長 田中 朗裕



○82日間の2学期がもうすぐ終了です

12月23日（月）に第2学期の終業式を実施します。記録的な猛暑が続く中で始まった2学期には、多くの行事がありました。ひとつひとつの行事を経験する中で、本校の児童生徒は達成感や満足感を味わいながら、着実に成長を遂げてきたと感じています。児童生徒のがんばりはもちろんですが、保護者や地域の皆様のお力添えのおかげと心より感謝しております。

12月24日（火）から15日間の冬休みに入ります。事前に各担任から休み中の学習や生活について指導はしますが、児童生徒が学校から離れて家庭や地域で生活する時間になりますので、安全で安心な生活を送ることができるよう、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

充実した冬休みを過ごし、1月8日（水）に全員が元気に登校することを願っています。

○各種コンクールでも大活躍!!

児童生徒は各種コンクールでも大活躍で、11月13日（水）には、須賀川間税会「令和6年度 税の標語」において、本校6年生が「須賀川間税会会長賞」を受賞し、須賀川間税会会長様から賞状と記念品が授与されました。会長賞を受賞した標語は「税金は 子供と大人のレスキュー隊」です。また、11月29日（金）には、一般財団法人福島県社会保険協会、郡山年金事務所の方が来校し、「令和6年度福島県年金ポスターコンクール」の表彰式を実施しました。本校の8年生が「一般財団法人福島県社会保険協会会長賞」を受賞し、賞状と記念品が贈られました。

4月からこれまでに本校の児童生徒がいただいた賞状及び合格証は、全部で200枚以上になります。



○「情報モラル教育」第3回授業参観お世話になりました

12月6日（金）の授業参観には、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご出席いただき、各学年で「情報モラル」について学ぶことができたことを嬉しく思っています。本校の各種調査からは、SNS を利用している時間が長いことと、そのことが原因で睡眠時間に影響が出ている等の課題が見られました。SNS 利用のリスクを知り、適切で上手な関わり方を学ぶことは、現代の子どもたちにとってとても重要なことであると考えています。これを機に、ご家庭でもルール作りに向けた話し合い等の時間を作っていただけたら幸いです。

また、授業参観後の「ドライマトの販売会」にも多くの保護者の皆様にご協力いただき、予定の80袋を完売することもできました。ありがとうございました。



○食と放射能についての講演会を実施しました

東京大学から講師の先生をお招きして、11月25日（月）に5・6年生、翌日の26日（火）に7～9年生を対象に「2024年度食と放射能に関する説明会」を実施しました。福島第一原子力発電所の事故を振り返り、セシウムについて専門的な話を聞くことができました。一人一人が真剣に、そして時には笑顔になりながら、興味をもってお話を聞くことができました。話を聞いた後には、講師の先生に質問をする児童生徒も見られ、「食」と「放射能」についての理解を深めることができた様子でした。



○部活動（特設部）の早期入部を実施しています

11月22日（金）に6年生が部活動見学を行い、現在、希望者が特設部員として、後期課程の部活動に早期入部をしています。本入部は、来年の4月になりますが、できるだけ早く部活動に参加したい、後期課程に進級後に入部する部活動の練習を体験したい、という願いが多く学校に寄せられたため実施しています。12月4日（水）には説明会を開催し、部活動担当の先生や各部の顧問の先生からの説明を聞き、12月9日（月）から放課後の練習に参加しています。



○初チャレンジ！給食に「チャーハン」を提供しました

12月6日（金）の給食は、子どもたちの強い希望により「チャーハン」を提供しました。実はこのメニューは、栄養技師の先生と調理員さんの工夫と努力によって実現しました。本校では、幼稚園と合わせて、毎日およそ300食分の給食を提供しています。学校の調理室で300食のご飯を炒めることは難しいため、まず具材を炒め、ご飯と合わせる形でチャーハンの風味を実現しました。児童生徒への「食育」の一環としても大成功でした。今回の挑戦については、保護者の方から学校に感謝の言葉もいただきました。



随 想

「やっぱり子どもの力はすごい！」

4月以降15回の発行をする間、本校の児童生徒の活躍、保護者や地域の皆様にご支援いただいたことをお知らせしたいと考えていましたが、今回から随想として、私が日々思うことや感じたことも書きたいと思います。

私は、日々「子どもの力はすごい」と感じています。子どもががんばる姿や喜ぶ姿、時には悔し涙を流す姿を一番近くで見ることができる教師という職業に就いたからこそ感じられるものかもしれませんが、子どもたちの成長のスピード、時には私の想像を遙かに超える変化の大きさに驚かされてばかりです。そんな思いから、先日、本校でも「表彰集会」の方法を変更しました。子どもたちに「表現する力」を身に付けてもらうことが目的で、賞状をもらった後に、全校児童生徒の前で感想を発表してもらいました。緊張しながらも、堂々と自分の言葉で、自分がかんばったことや思うことを話す姿を見て、「やっぱり子どもの力はすごい！」と改めて実感しました。